

令和元年産(平成30年播)麦生育情報 No.6 (R1.5.16)

(本年産麦の情報は今回が最終です。)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

滋賀県近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

1 気象経過と生育状況

① 気象の経過 (彦根气象台、平成21～30年の平均値との比較)

期間	要素	平均気温	日照時間	降水量
	4月	上旬	低い	かなり多い
中旬		やや低い	多い	少ない
下旬		やや高い	かなり少ない	やや多い
5月	上旬	やや低い	かなり多い	やや少ない

注) 平均気温 <±0.5℃:平年並、±0.5～1.0℃:やや高い(低い)、±1.0～2.0℃:高い(低い)、±2.0℃<:かなり高い(低い)
日照時間 <±5hr:平年並、±5～10hr:やや多い(少ない)、±10～15hr:多い(少ない)、±15hr<:かなり多い(少ない)
降水量 <±10mm:平年並、±10～20mm:やや多い(少ない)、±20～30mm:多い(少ない)、±30mm<:かなり多い(少ない)

※ 4月下旬の平均気温は「やや高い」としているが、第5半旬は「かなり高い」、第6半旬は「低い」となっており、気温の変動が大きい。

② 生育状況

農業技術振興センター麦類作況調査(4月12日時点)では、11月5日播の「農林61号」、「ふくさやか」の出穂は平年より6～7日、開花は3～4日早く(表2)、葉数は平年に比べてやや少なくなった。草丈は長く、茎数は少なくなっている(表1および後掲グラフ)。11月20日播の「農林61号」、「ふくさやか」でも、草丈、茎数は同様の傾向を示している(後掲グラフ)。

表1 令和元年産(平成30年播)麦類作況調査の結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種名	年次	3/29 調査			4/12 調査		
		茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数	茎数 (本/m ²)	草丈 (cm)	葉数
農林61号	R1年産	612	61.3	9.0	572	76.3	9.1
	平年(参考)	679	45.4	8.4	664	66.7	9.3
ふくさやか	R1年産	546	61.2	9.1	494	75.0	9.1
	平年(参考)	645	46.7	8.6	613	65.8	9.3

※播種日:平成30年11月5日。

※平年(参考)はH24～30年産(H23～29年播)の7年間の平均値。

※播種量は8kg/10a条播(条間25cm)。

表2 麦類作況調査における出穂期・開花期・成熟期

農業技術振興センター（近江八幡市安土町大中）

基準播種日	農林61号						ふくさやか						サチホゴールド			ファイバースノウ		
	11/5			11/20			11/5			11/20			11/5			11/5		
産年	R1	平年	較差	R1	平年	較差	R1	平年	較差	R1	平年	較差	R1	平年	較差	R1	平年	較差
出穂期	4/11	4/17	6日早	4/21	4/24	3日早	4/7	4/14	7日早	4/20	4/22	2日早	3/21	4/1	11日早	4/12	4/17	5日早
開花期	4/23	4/27	4日早	4/29	5/1	2日早	4/22	4/25	3日早	4/27	4/30	3日早	-	-	-	4/21	4/23	2日早
成熟期		6/4			6/7			6/1			6/4			5/20			5/27	

※平年の月日は、「農林61号」、「ふくさやか」、「ファイバースノウ」は7年間（2012～2018年産）、「サチホゴールド」は6年間（2012～2016、2018年産）の平均値。

☆5月7日現在の「農林61号」と「ふくさやか」（農技センター作況調査）



「農林61号」



「ふくさやか」

表3 登熟期の有効積算気温による小麦の成熟期予測

品種名	1) 播種基準日	1) 出穂期	成熟期予測日 2)			平年の成熟期	昨年の成熟期
			5/13以降の日平均気温 3)				
			平年並の場合	平年+1℃の場合	平年-1℃の場合		
農林61号	11/5	4/11	6/8	6/6	6/11	6/4	6/6
	11/20	4/21	6/10	6/8	6/13	6/7	6/8
ふくさやか	11/5	4/7	6/5	6/3	6/8	6/1	6/2
	11/20	4/20	6/7	6/5	6/10	6/4	6/7

- 1) 播種基準日および出穂期は農業技術振興センター麦類作況調査データ。
- 2) 出穂期の翌日からの有効積算気温(10℃以上)が、「農林61号」は390℃、「ふくさやか」は360℃に最も近くなる日を予測日としている(5/12までの日平均気温は彦根気象台観測データ)。
- 3) 5/13以降の日平均気温はH21年～H30年の10年間の平均値を平年とする。
平年+1℃、-1℃は、5/13以降の日平均気温が毎日、平年値より+1℃、-1℃になったとして計算。

2 県内の状況

- 出穂期は平年より早まったが、4月上旬～中旬の気温が低かったことから開花までの日数は平年より長くなっている。
- 5月に入ってから気温が低く、登熟はゆっくり進んでいる。

3 今後の管理

(1) 適期収穫

- 出穂期までは早まっていた生育が、4月以降の低温でやや停滞している。しかし、気象情報では向こう一か月の平均気温は高温に経過すると予想されていることから、登熟の進みや子実水分に注意し、収穫作業が遅れないよう、準備を整えておく。
- 麦類の成熟期は、外観上、黄緑色が消失して褐色になり、子実が糊状の硬さに達した時で、**収穫適期は、小麦では成熟期から2～4日後、大麦では1～3日後頃**になる。
- 収穫は子実水分30%以下**になる頃に行う。水分が高くと、穀粒の損傷や品質の低下が著しく、乾燥調製施設の処理能力の低下につながり、コストも高くなる。一方、刈り遅れて、降雨にあうと、容積重が低下し、倒伏や穂発芽などの品質低下を起す危険が高まるので注意する。なお、**ビール麦や種子麦は発芽勢を確保するため子実水分25%以下で収穫**する。
- 梅雨の合間を縫っての収穫作業になる場合は、立毛の状態でもまめに子実水分を測定するなど、ほ場の観察を十分に行い、ほ場ごとの作業計画を綿密にたて、刈り遅れないよう注意する。

(2) 排水対策

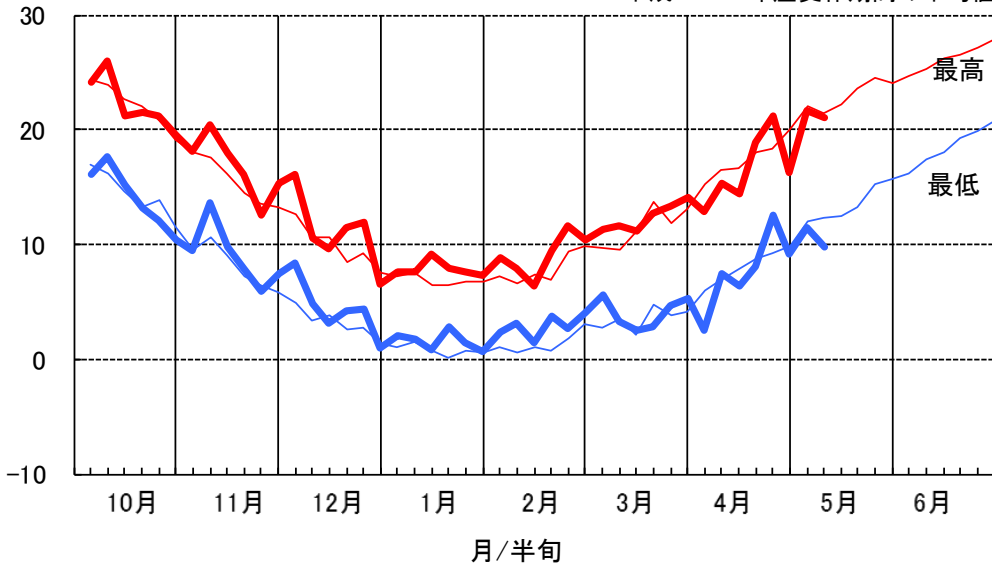
- 登熟期の湿害は減収するだけでなく、加工適性を含め品質を大きく低下させるので、排水溝を今一度点検し、速やかに排水するよう、**溝さらえ等を徹底**して行う。

【参考サイト】

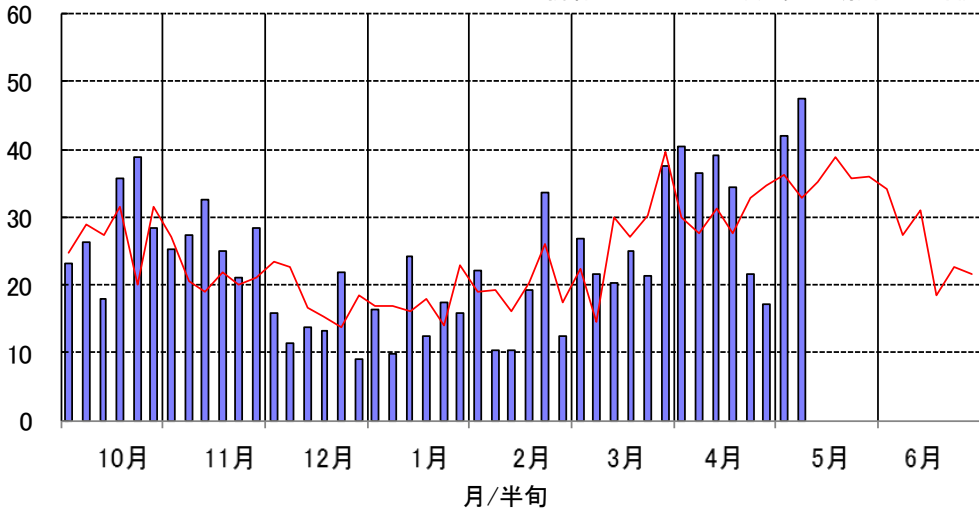
農業技術振興センター	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/
病虫害防除所	http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/
彦根地方気象台	http://www.jma-net.go.jp/hikone/
異常天候早期警戒情報	http://www.jma.go.jp/jp/soukei/

令和元年産(平成30年播) 麦作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

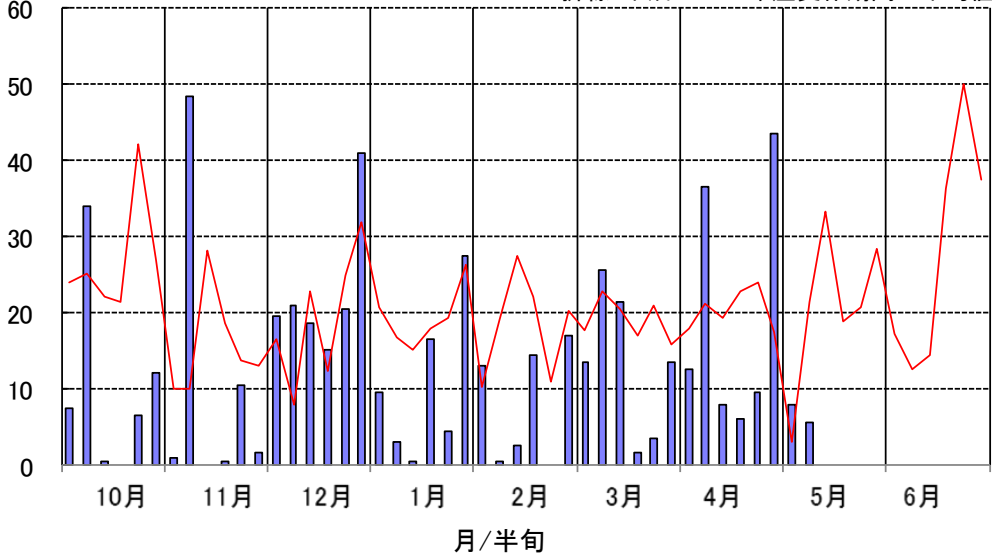
(°C) 【気温の推移(最高気温、最低気温)】 棒線: 本年(令和元年産) 折線: 平成21~30年産麦作期間の平均値



(hr) 【日照時間の推移】 棒線: 本年(令和元年産) 折線: 平成21~30年産麦作期間の平均値



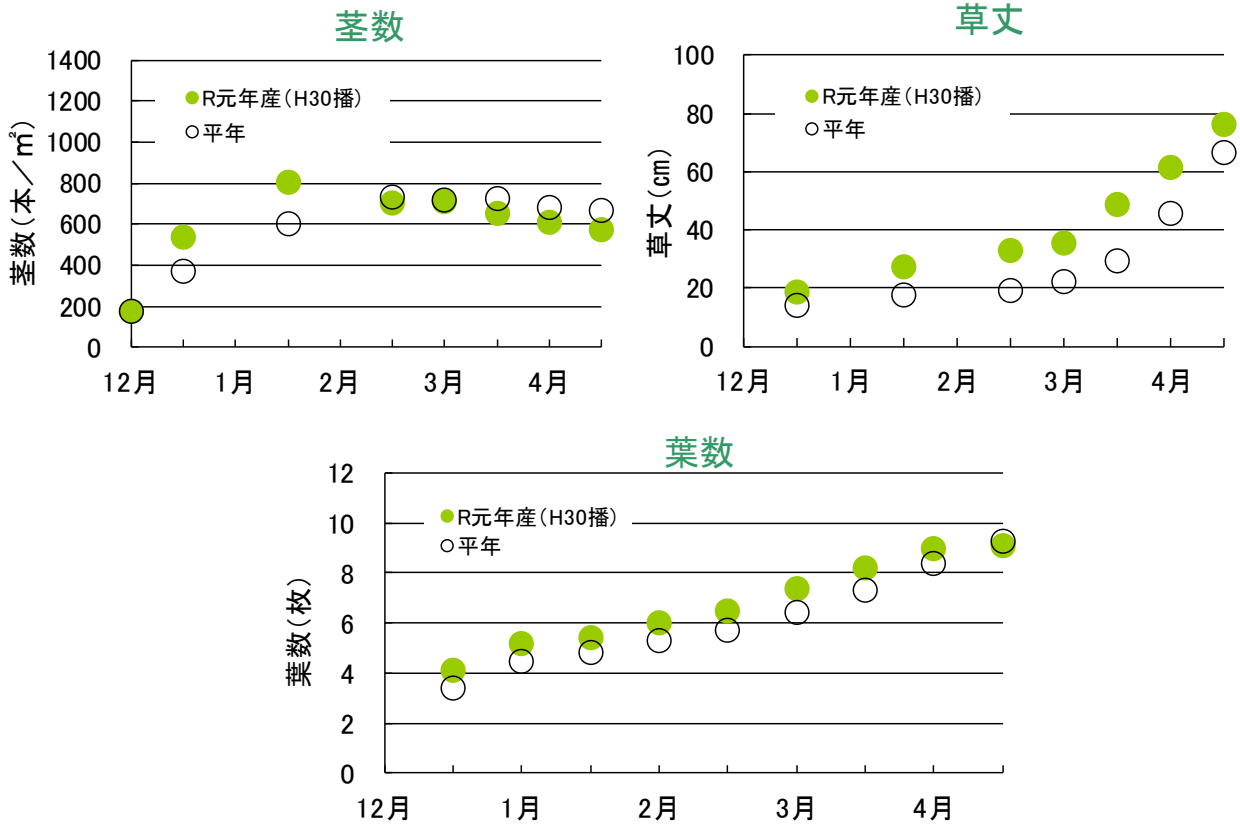
(mm) 【降水量の推移】 棒線: 本年(令和元年産) 折線: 平成21~30年産麦作期間の平均値



令和元年産生育調査結果（1）

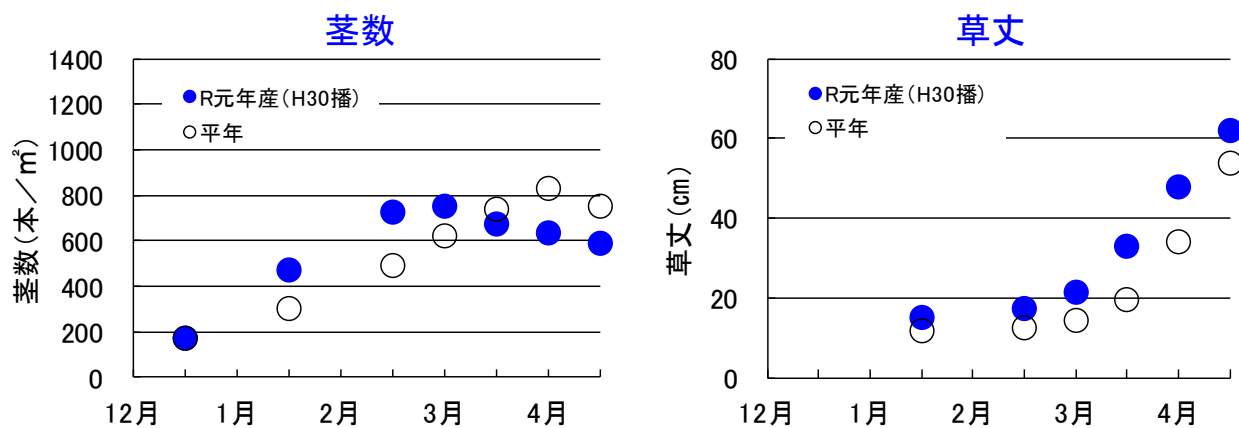
「農林61号」

平成30年11月5日播



(参考)

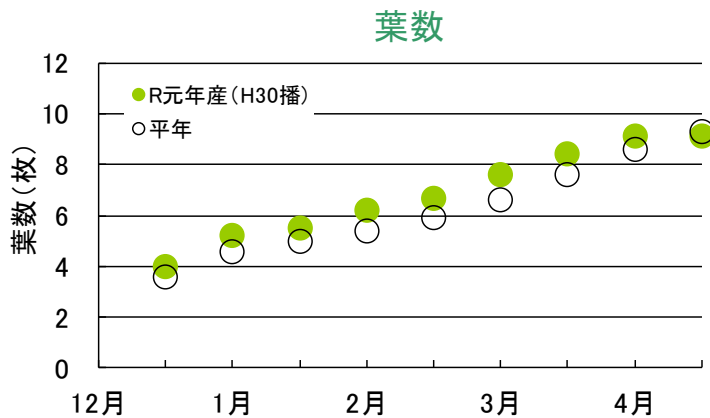
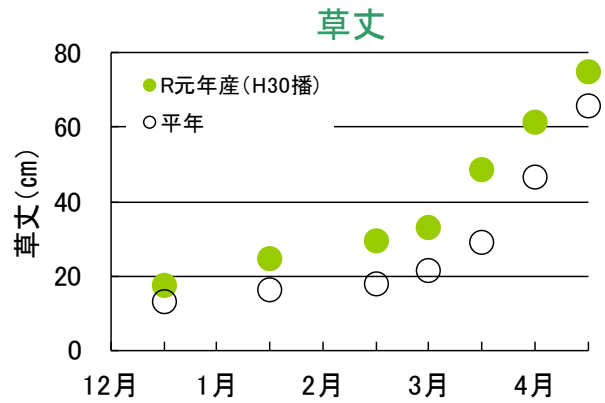
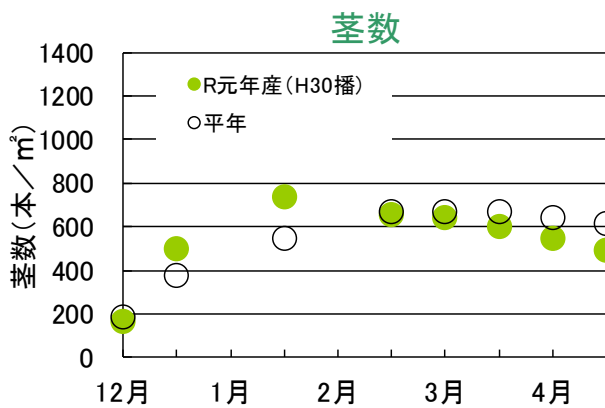
平成30年11月20日播



令和元年産生育調査結果（2）

「ふくさやか」

平成30年11月5日播



(参考)

平成30年11月20日播

